

R18
Adult Only



は

な

さ

な

い

で

そ

ば

21

い

21

もし、あの時…



正直に想いを
伝えていたなら…



未来は変わっていただろうか…

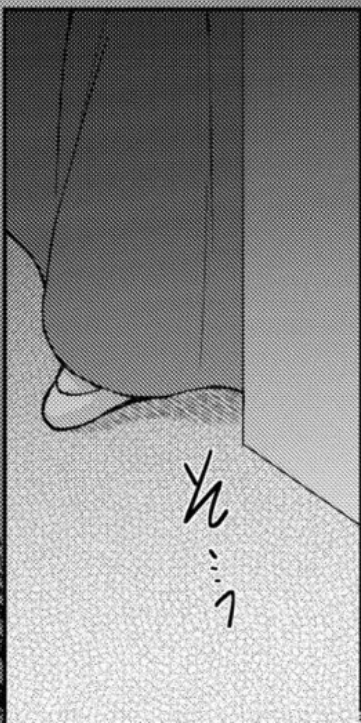
おまえが
好きだ…





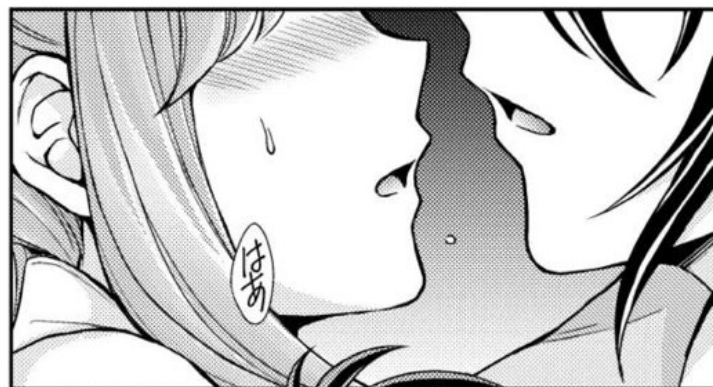


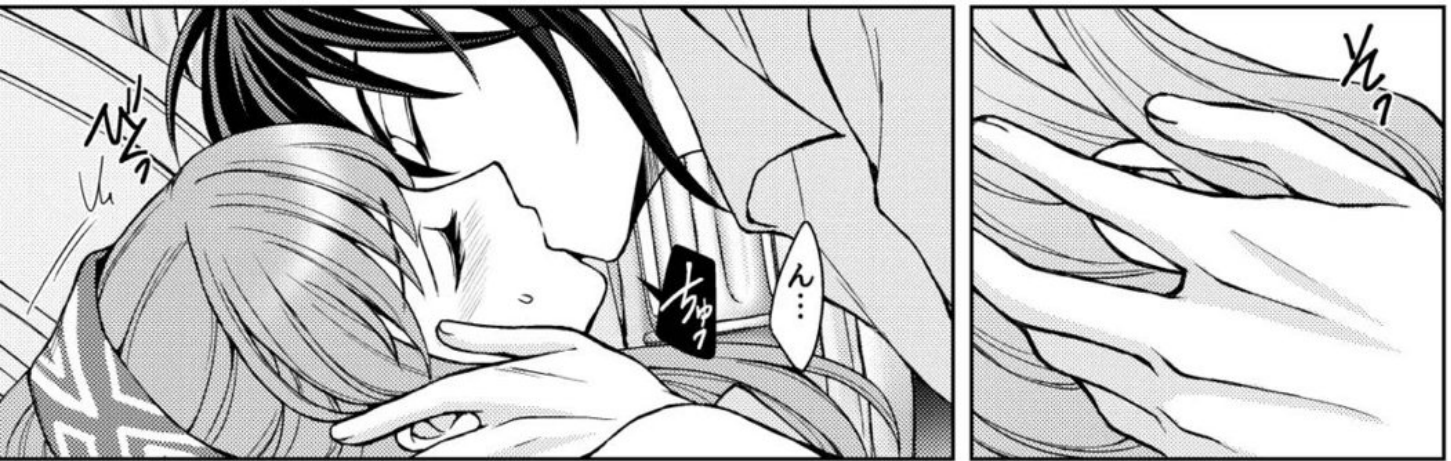


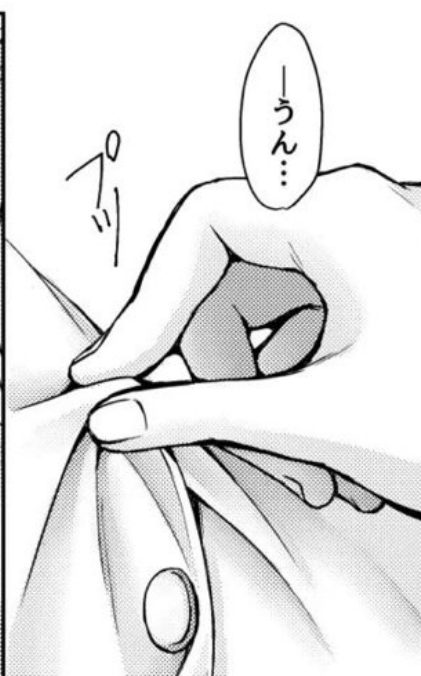








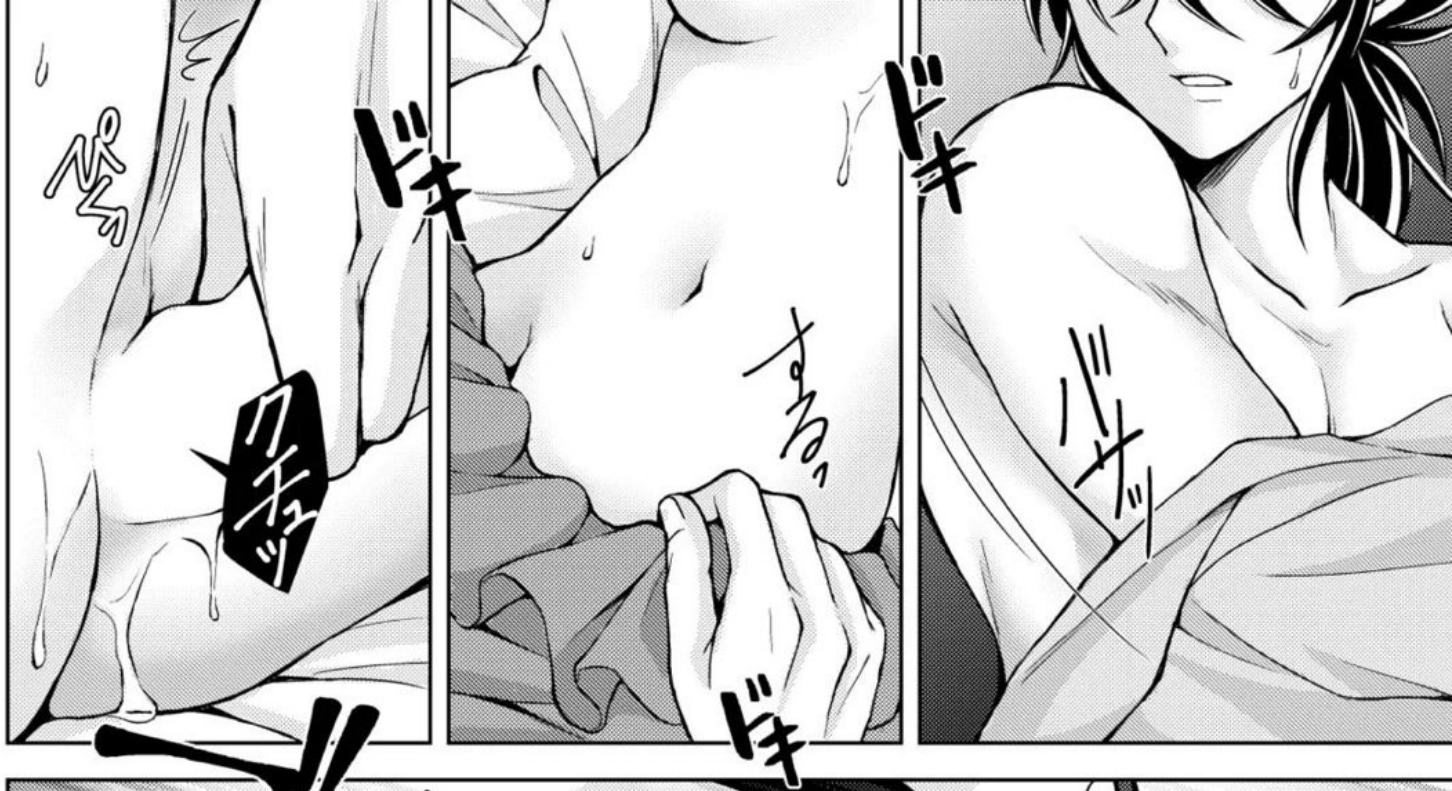


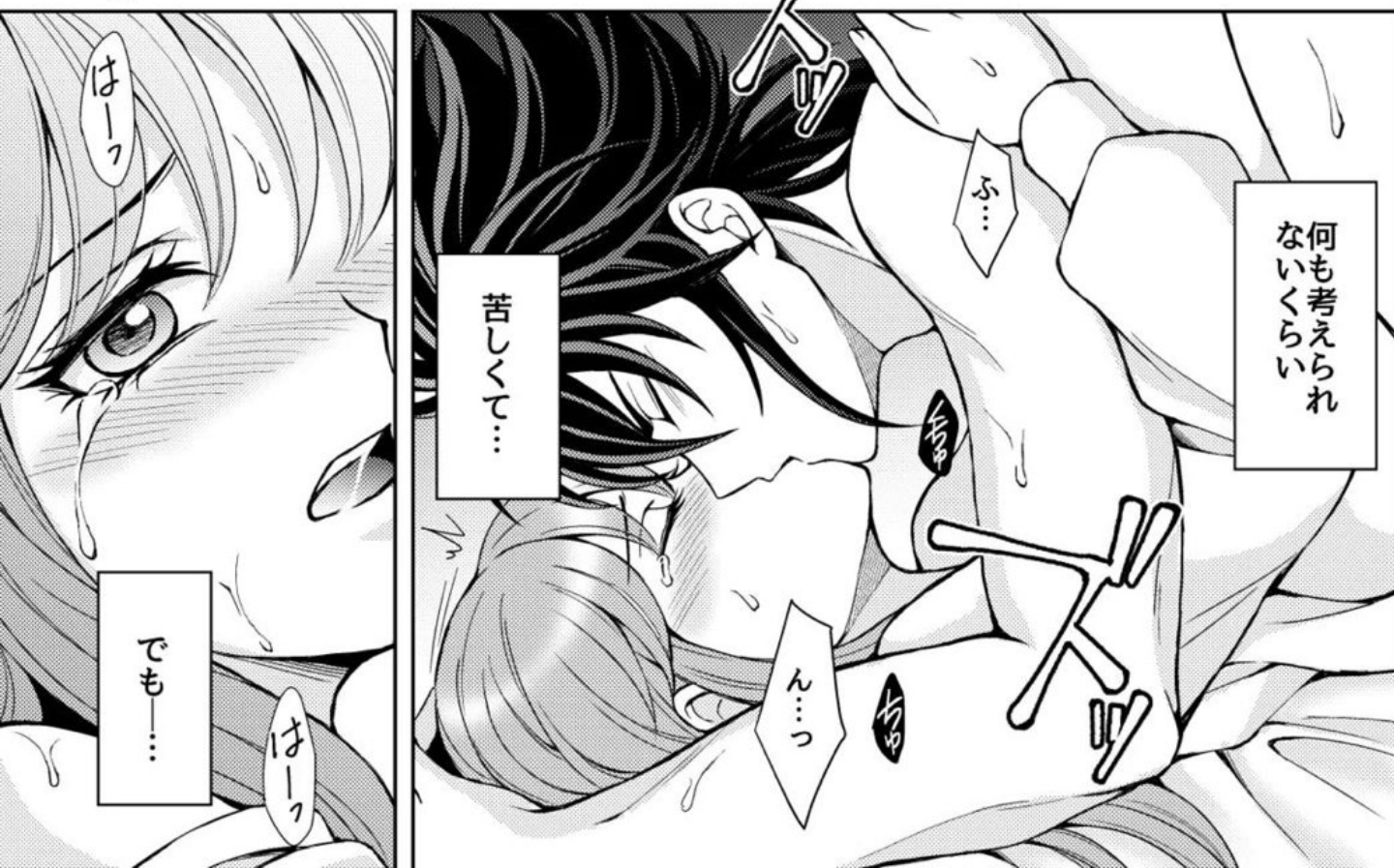






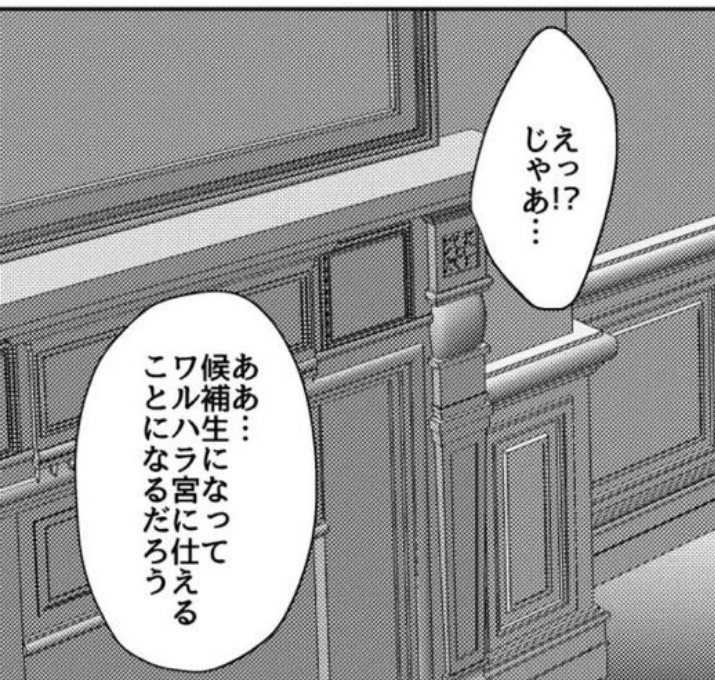
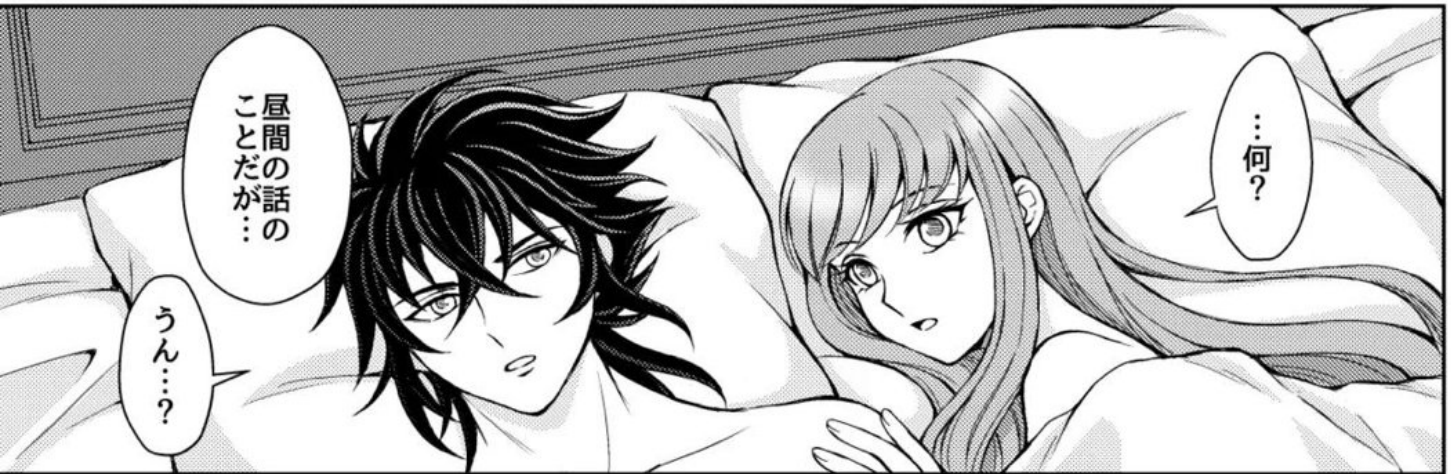
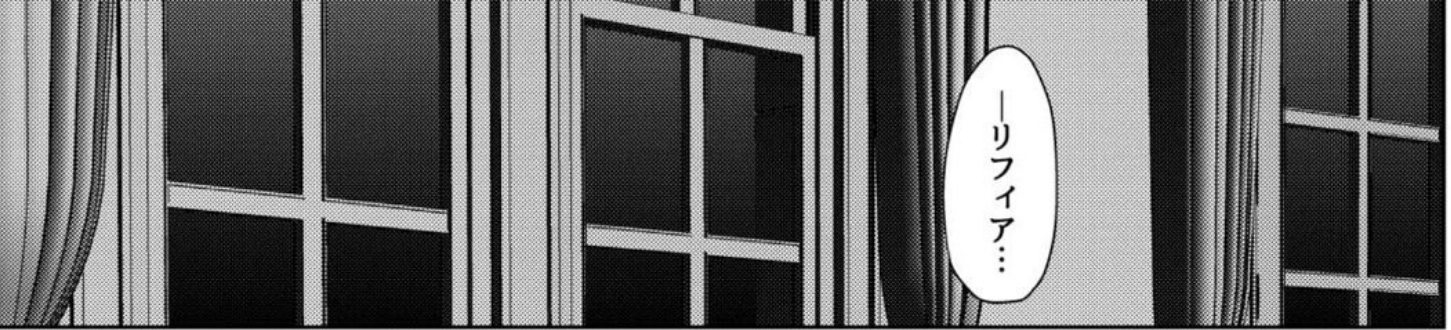








わたしの気持ち
は
とても満たされ
て
いたの...





そうならば
ずっとおまえの
側にいられる
理由ができる

とは言っても…

こんな不順な動機で
なれると決まったら
わけでもないけどな

大丈夫よ!!

…!?



なれるよ!
フロディなら
きつと…!!

何でそう
思える…?

何となく
だけど…

何となく…

立派な神闘士
になれるの!
気がするの!

気がする…



でも…本当に
そうならたら
アスガルドも
ヒルダ様も…

わたしのことも
守ってくれる?



当たり前だ…

ずっと…おまえを
守っていくよ



どうかずっと
側にいて…
わたしを
離さないで…

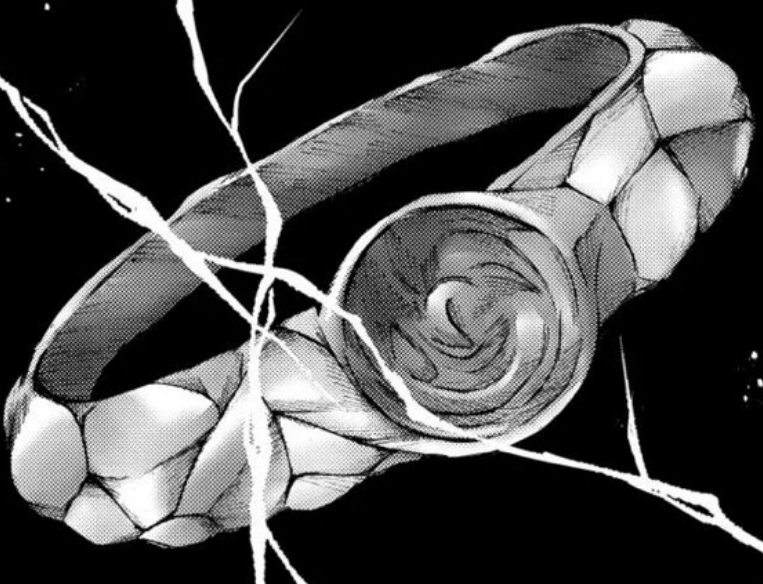


そんなさやかな願いは
時代の流れによつて
かき消されていった…



神に与えられた
災いの指輪が
いいをもたらし

アスガルドは激動の
時代を迎える



形を失った後も
指輪はその呪いを
増幅させ

最後の所有者と
なつた者はその身体
を蝕まれていった…

ヒルダ様が
病に伏された

アスガルドの情勢は
めまぐるしく変化し

人々の信仰もた
移ろいでいった

そして…





フロディは
神闘士に
任命され
た



あれほど
願っていた
ことなのに……

わたしは
それな
素直に
喜べな
かつた

これは本
当にこ
のしこ
なかい
違和感
は……
何なの
か……





わたしにしか
出来ないこと
がある…

—そうヒルダ様
に告げられた…

何も持たない
—非力なわたしに
—体力が来ない
—というのか…



リフィア…!?



はっ

…!?



式典で姿を見かけ
なかったが…

どうかしたか？

…フロディ



えーと…その…
少し気分が悪くて
途中で退席させて
もらったの…

大丈夫
なのか…!?

え…ええ
もう平気よ

そうか
それなら良いが…

この姿をおまえに
一番見せたかった
からな…残念だ



ねえ…
フロディ

何だ…?

神闘士になれたのは
とても誇らしいこと
だと思うの…でも…

フロディなら
きっと…

分かって
くれる…

わたしは…

アンドレアス…さま…
のやつていることが
正しいとは思えないの



どういう事だ…

お願い…
彼に加担…
しないで！

あなたの力は
正しいことに
使ってほしいの！



何を言っている？
アーンデイレアス様は！
オーデイレアンの
地上代行者を任された
偉大な御方だぞ！！

あの方の行いが
間違っている
とでも…！？

そのうえ
オレに神闘士の
地位を捨てろと
いうのか！！

あなた達は
騙されて
いるのよ！



おまえが何を
言っているのか
分からない…

神闘士になることは
オレたちの願いでも
あったはず…



このままでは
アスガルドが…
滅んでしまうの…

分かっ
て！
フロ
ディ
ー！

違うわ…

わたしは願った
のしはこんなこと
じゃない…!!



…はい?

今はヒルダ様の
侍女をしているの
娘だ…

確か君とは
幼少の頃からの
付き合いだからの
間合いいるが…

—リファイア

…と言ったか

え…ええ…
そうですが…
それが何か?

私はどうやら
彼女に疑われて
いるようですね

『アスガルドを
滅ぼす厄災』などと
周囲に触れまわって
いるそうだし…

…!?

仲の良かい君なら
何かの間にさされて
思っているのだが…

そうですね…
しかしこのまま
見過ごすわけにも
いかないでしょう

君には彼女の
動きを監視して
もらいたい

監視…!?
そこまで
せずとも…

もし…

い…いいえ!
そのようなこと
は何も…!!

彼女が
謀反を起こす
ようなことが
あれば…

その時は…!!

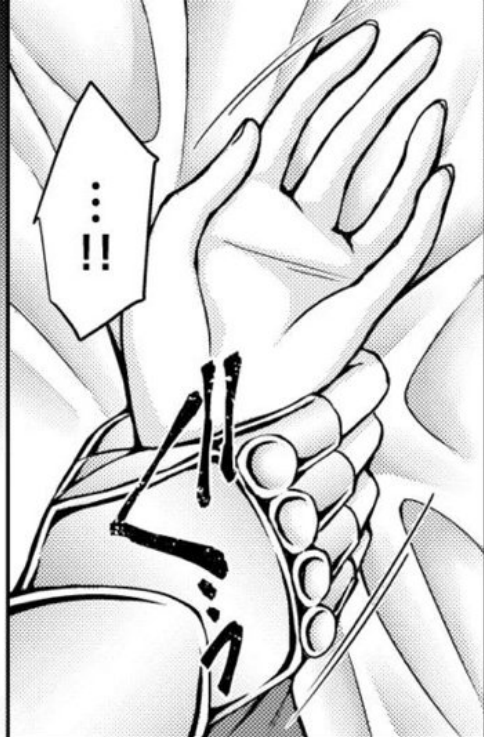
分かりますね?
フロデイ…!!



お…仰せの
ままに…







おまえを守ると
約束したのを
忘れたか…？

私から
離れるな

ずっと私の
側にいろ



私…



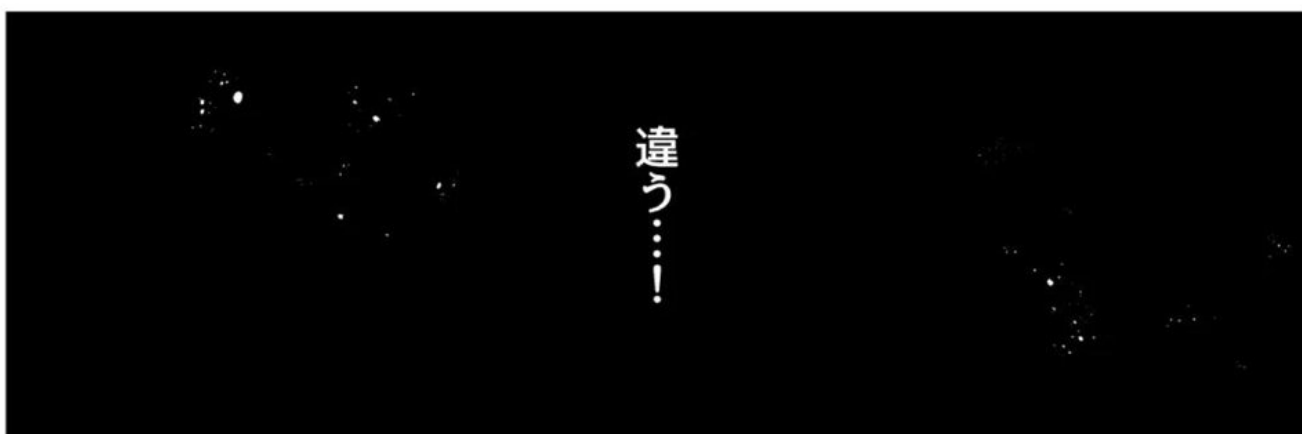
違う…



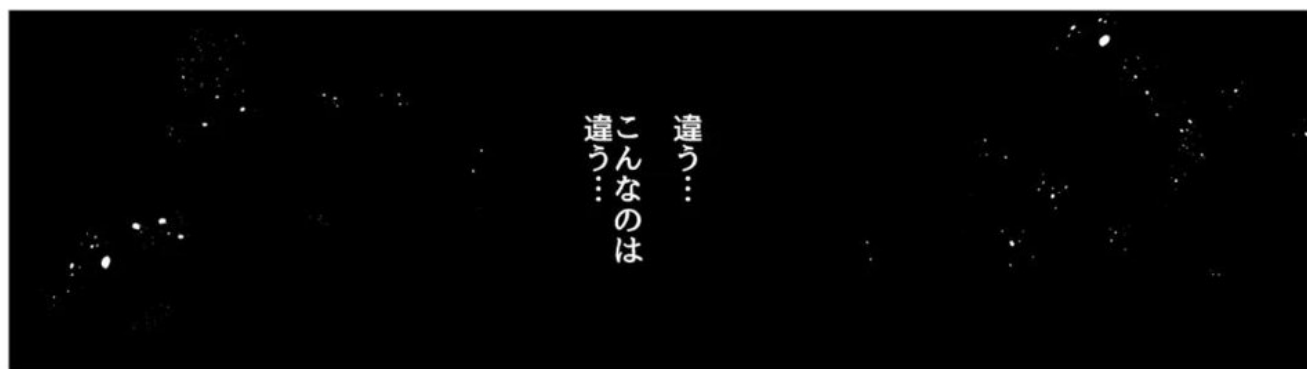
ん…っ

や…っ

ん…っ



違う…！



わたしは あなたを拒めなかった…

おまえを
守れるのは
私だけだ…は





このまま

ただ
守られながら
日々過ごして
いくことが

わたしに
とっては
幸せなの...?



わたしに
できることは
もう……

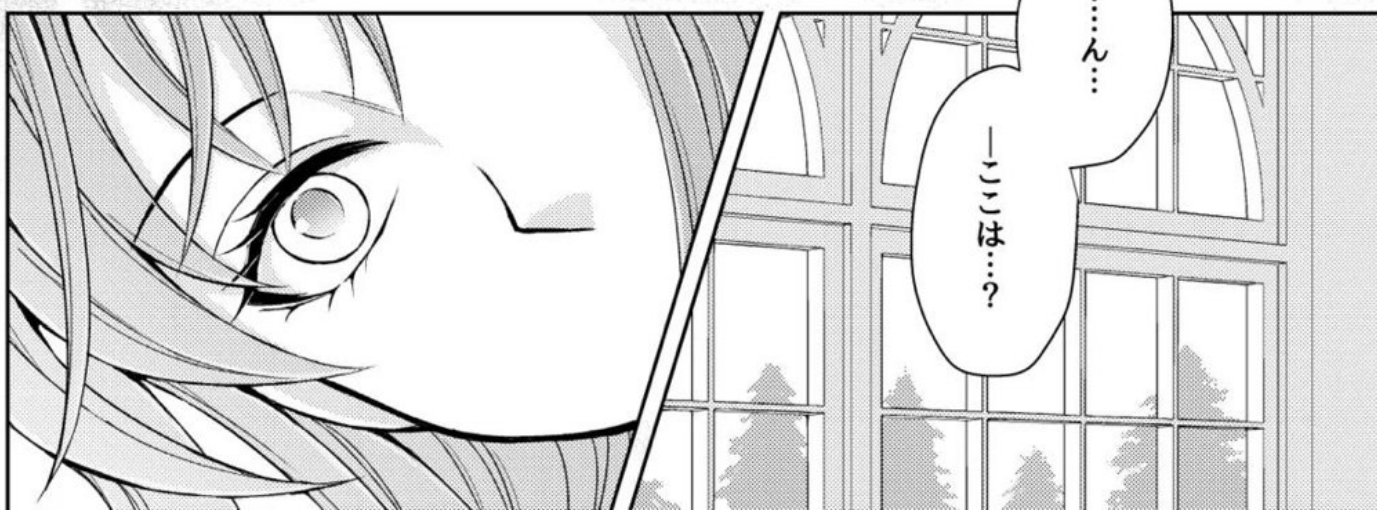


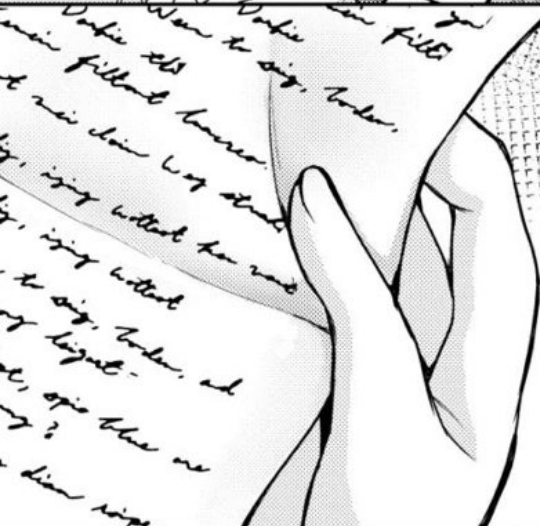
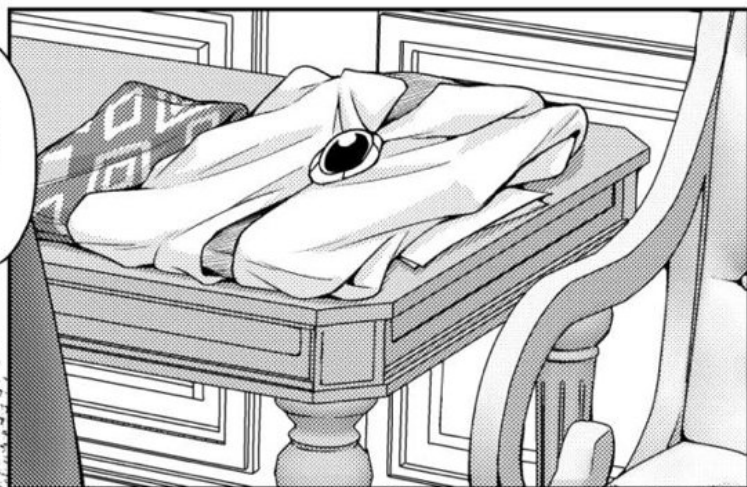
何もないの？





わたしはどうしたらいい…？





ただ直接的な表現
ではないけれど
唐突に理解されて
しまった...

フロディの
言葉はない

そこには
わたしの
謝罪と
まじって
簡潔に
書いて
くれた



わたし
自分
は
人
質
な
の
だ
！
...
と

彼の「正義」を
のめてしまった
はわたしだ…

このまま守られて
いるだけでいいの？

彼はそれが間違いだと
気付いてもわたしを
守ろうとするだろう

このままでは駄目だ…

わたしは
どうしたら
いいの…？

わたしに何が
出来るの…？

アスガルドの未来を—…
これはあなたにしか出来ないことなのです…

…ヒルダ様

わたしにも

出来ることが
—あるの？



オーデイン様

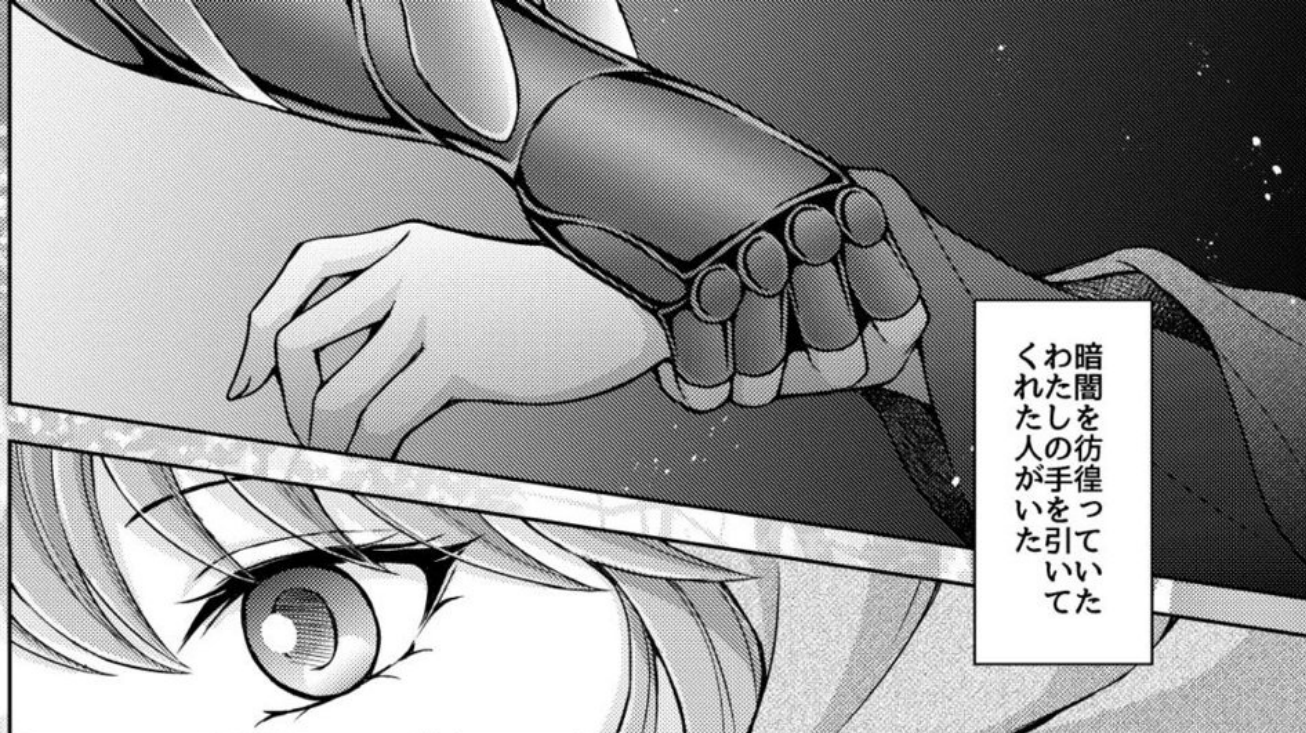
どうかわたしを
お導きください…



これより後^{のち}
わたしは記憶を
一部欠いていた



わずかに残って
いたのは……



暗闇を彷徨って
わたしの手を引いて
くれた人がいた



その手はとても
冷たくて…

フロディではなかった
のは確かだった…



お願い…わたしと
一緒に闘って…!!

わたしは自分の
信じる道を
進むだけ…

あなたがそう
したように…



ねえ…
フロディ



できるなら
あなたの側に
いたかった…

でも…
わたしは…

リフィア…

なぜ私の元を
去った…





側にいれば私が
守り切ると約束
したんだろう！?



フロディ…



わたしは自分の
成すべきことを
するだけ…

あなたに
守ってもらわな
くても大丈夫よ

—そう… 未来は変わらない